

**長崎県小学生バレーボール連盟  
平成30年度小学生バレーボール審判講習会**

**資 料**



**日時：平成30年5月12日（土）**

**場所：佐世保市立江上小学校体育館**

**日時：平成30年5月13日（日）**

**場所：諫早市立御館山小学校体育館**

# ど真ん中に子どもがいる日本小学生バレーボール連盟

## 2018年度 運営基本方針

1人でも多くの子どもたちへ、ボールをつなぐことの大切さを伝えることをとおして、子どもたちと共に発展していきます。

### 2030年に向けた長期目標

- 1 教えるバレーボールから考えさせるバレーボールの定着に向けて、指導方法の変革を行います。

### 2020年に向けた中期目標

- 1 移籍に関する基本的な姿勢を見直し、子どもたちがバレーボールを続けることができる環境を整備します。
- 2 小学生バレーボールの普及及び発展を長期にわたり支える組織を目指し、連盟の法人化を行います。
- 3 47都道府県において、低年齢層の子どもたちを対象とした事業等を開催しバレーボールの一層の普及・発展を図ります。
- 4 全国大会の在り方についての検証をまとめ、実行可能な計画を作成します。
- 5 男女共通の競技規則であることの強みを活用し、女子・男子・混合の3つのカテゴリーを充実させながら、バレーボールの新たな姿を実現します。
- 6 地域に根差し、子どもたちに熱心に指導を行う優良チームを対象に、海外交流事業を実施します。

### 理念達成への方策

- 1 子どもたちを育てることが、大人（保護者、指導者、役員）の役割です。
  - (1) 基礎的・基本的な技術のバランスの取れた習得、女子・男子・混合を3つのカテゴリーの充実に向け、競技規則の検討を進めます。
  - (2) Thank You VBCの理念を徹底し、「理想の指導者」、「育てる子どもの姿」を追求します。
  - (3) 協力企業との関係を一層強固なものにするとともに、新たな支援企業を開拓します。
- 2 日本小学生バレーボール連盟の組織を、時代のニーズに合わせて強化していきます。
  - (1) 他のスポーツ団体等と協力して、いつでも、誰でもが、子どもたちの希望に合わせてバレーボールが楽しめるよう、子どもたちを取り巻くスポーツに環境を一層改善していきます。
  - (2) 当連盟及び47都道府県連盟の財源の安定化を図る仕組みを整備します。
  - (3) 当連盟の次代を担う人材の発掘及び育成に力を入れます。
  - (4) 従来の構成に捕われず、新たな視点から小学生バレーボールを発展させる組織を構築します。
- 3 時代が求める指導者の育成のため、指導者講習会の役割を見直します。
  - (1) 資格取得の段階から、意識変革を目指した講習会とするため、講習内容の充実を図ります。
  - (2) 幼稚園児等の低年齢層や障害のある子どもたちに対する指導方法を開発します。
  - (3) 男女混合カテゴリーの考え方や活用方法について、指導者講習会を通じて発信していきます。
- 4 第38回小学生大会は、複数の企業に応援いただけただけの大会を目指し、発展させていきます。
  - (1) 子どもたちの視野を広げることができるとの視点を発信していきます。
  - (2) 限られた予算の有効活用と、参加チームの費用負担の軽減を図ります。
  - (3) 2020年に開催する福島・宮城・岩手開催に向けた準備を本格的に進めます。
  - (4) 大会関係商品の販売収入を基本財源とした大会予算で運営していきます。

平成30年度 日本小学生バレーボール連盟 予算編成指針

- 1 指導者、保護者の意識を変えるため、啓発事業へ一層投資します。
- 2 低年齢層への普及を進める事業へ、積極的に投資します。
- 3 事業運営費増に向けた方策を展開し子どもたちへ還元していきます。

## 1. 教育的指導の取り扱いについて

### 〔教育的指導の目的〕

- ・試合を通してルールやマナーを学び、フェアプレーを自ら考え、行動できる選手の育成を目指す。

### 〔教育的指導の取り扱い〕

- ・教育的指導は同等の行為を繰り返さないように指導すると共に、ルールを守り、お互いが気持ちよく試合を進める大切さを伝える。
- ・教育的指導は選手の不法な行為に適用される。各チーム1試合に1回のみとする。記録用紙には記載されない。
- ・軽度の不法な行為は罰則の対象ではないが、主審はチームが軽度の不法な行為に達する前に防ぐ必要がある。
- ・小学生の選手に軽度の不法な行為に繋がる行為があった場合は、早い段階で当該チームに教育的指導を与える。
- ・主審は当該チームのゲームキャプテンと副審を審判台の下に呼び、教育的指導を行う。
- ・ゲームキャプテンは、指導された内容をコート内の選手に伝え、副審は指導された内容をチームの監督に伝える。

### 〔教育的指導以後の取り扱い〕

- ・不法な行為に対する罰則を適用できるのは主審のみである。副審は不法な行為に気づいたとき、主審に報告する。
- ・すべての不法な行為に対する罰則は個人への適用だが、指導は監督の責任である。
- ・教育的指導後のチームメンバーの不法な行為は、「不法な行為に対する警告と罰則段階表」に従い取り扱う。
- ・主審は当該チームのゲームキャプテンと副審を審判台の下に呼び、行為について説明をする。カードが適用される場合はカードを提示する。
- ・ゲームキャプテンは説明された内容をコート内の選手に伝え、副審は当該チームの監督に伝える。
- ・カードが提示された時に該当選手と監督は片手を挙げる。(子どもだけの責任にしない)
- ・退場及び失格を受けた選手は、ペナルティエリア内への移動や競技コントロールエリアからの退去はさせず、監督席横に座らせベンチスタッフの管理下に置く。罰則を受けた選手(子ども)の精神的ケアと試合復帰のためのサポートをベンチスタッフが必ず行うよう副審が指導する。

## 2. その他の取り扱いについて

### (1) 遅延行為（選手が試合を遅らせること）

- ① ラリー終了後すみやかにボールを拾いに行きサーバーにボールを送ることや、次のサーバーはサービスゾーンに移動してボールを受け取ることなど、サービスの準備が遅れないよう、吹笛等で促す。
- ② 靴紐が解けたら結ぶことや汗でコートが濡れた場合はタオルで拭くなど、安全への配慮から、試合に影響の無い程度で積極的に行動するよう、チームに伝えておく。
- ③ 選手が試合の再開を引き伸ばす要求をした場合は、選手にその行為をさせた後、ゲームキャプテンと副審にその行為が遅延罰則の対象になることを伝え、副審は監督に伝える。
- ④ 選手がさらに試合の再開を引き伸ばす要求をした場合は、選手にその行為をさせた後、ディレクターの罰則を適用し、試合を再開する。
- ⑤ 主審は、どのチームメンバーが引き起こしても、どの種類であっても同じチームによる2回目以降の遅延行為はディレクターペナルティとなることをゲームキャプテンと副審に伝える。副審は監督に伝える。

### (2) 「誤ったサーバーを打たさない」

- ① サーブ順の管理はチームの責任である。
  - ② 主審はスコアラールによるサーバーの確認を行う。
  - ③ スコアラーがサーバーの誤りを確認したら、チームに誤りを伝える。
  - ④ チームが正しいサーバーがわからない場合は、ゲームキャプテンは副審を通じて、スコアラールに番号を確認することができる。
  - ⑤ チームがサーバーの確認をしたときに、審判団より誤った情報を伝えられ、ラリーが進行した後に審判団自ら誤りに気づいた場合は、直ちにラリーを止めノーカウントとし、誤った情報が伝えられた時点まで両チームの得点を戻し、正しいサーバーから試合を再開する。
  - ⑥ サーバーの確認のないまま誤ったサーバーが打った場合は、ローテーションの反則となる。
- (3) サーバーは、主審がサービスのホイッスルをした後、8秒以内にボールをヒットしなくてはならない。
- (4) サーバーによってボールが打たれた瞬間には、サーバーを除く両チームの選手は、それぞれのコート内にいなければならない。コート外にいた場合はポジションの反則となる。その場合のハンドシグナルは、<sup>②③</sup>ペネトレーションフォルトを示す。

【基本実技】

ファーストレフェリー

1. ホイッスルとハンドシグナル キレのある強いホイッスル、正確なハンドシグナル

- (1) サービス許可
- (2) ボールデッド
- (3) ラリー中の反則

2. ファーストレフェリーの動き

(1) ホイッスル後のルーティーン 正確に！ 実に！リズムよく！

- ① 担当ラインジャッジの確認
- ② セカンドレフェリーの確認
- ③ ハンドシグナル

(2) サービス許可までのルーティーン 8秒程度のルーティーンを作る！

- ① レシーブサイドのチェック
- ② 記録席付近のチェック
- ③ サービスサイドのチェック
- ④ サーバーのチェック

(3) セカンドレフェリーがホイッスルした時 ファーストが最終判定(サイド)を示す！

- ① セカンドがホイッスルをする
- ② セカンドが反則の種類・選手を示す
- ③ ファーストがサイドのみを示す
- ④ セカンドは追従する

3. ファーストレフェリーの動きと位置取り バスの位置取りと視点を探す！

(1) アタック時の動きと位置取り

- ① プレーを予測する
- ② アタック側から見る
- ③ 早いボールは目で追う

(2) ネット上ブレーの動きと位置取り

- ① ネットの真上で止まって見る
- ② ボールの位置を確認する
- ③ ボールと手の接点を確認する
- ④ 反則時はすぐにホイッスルをする

起こる可能性のある反則を予測！

4. 不法な行為に対する対応

- ① 競技参加者の言動の確認躊躇することなく、的確に！
- ② 小さな行為を見逃さない
- ③ 無い様に応じた罰則を与える

## 【基本技術】

### セカンドレフェリー

1. ホイッスルとハンドシグナル キレのある強いホイッスル、正確なハンドシグナル
  - (1) タッチネット
  - (2) ボールアウト (アンテナ)
  - (3) ボールイン (パンケーキ)
2. セカンドレフェリーの動きと位置取り
  - (1) サービス許可までの手続き 確実に背番号を確認！間違えない！記録と協力！
    - ① ポジションの確認
    - ② ラインアップシートでの確認
  - (2) ラリー中の動きと位置取り ラリーを予測して早く位置取りをする！
    - ① 基本的な動き
    - ② アンテナに対する動き
    - ③ バックアタックの確認
  - (3) ラリー直後の動きと位置取り 必要な情報を得て、伝えることも重要！
    - ① ラインジャッジの確認
    - ② 補助シグナル
3. 中断の手続き
  - (1) 選手交代の手続き あわてずに、ゆっくりと、確実に手続きを！
    - ① 1人の選手交代
    - ② 両チームから&複数の選手交代
    - ③ ブザー無し

## 【まとめ】

1. 基本技術の理解
  - 目を見る
  - 動き、タイミングを見る
2. 基本技術の習得
  - 同じように動いてみる
  - 必ず人に見てもらおう

「わかる」と「できる」は大違い！！

わかる→やってみる→教えてもらおう→やってみる→わかる→やってみる→教える  
(伝える)

日小連審判研修会 競技資料の確認と質問回答

1. 国内競技委員会資料『競技要項』補足及び円滑な競技会運営に向けて  
(委員長配布資料)

3 ページ

- (1) 気温が高いときの大会運営について
- ① 給水の為のタイムアウト適用
- ・戦術的な指導は禁止し、給水、汗を拭くなどの行為に限定する。

小学生連盟では、選手が水分補給のできる状態での指導行為はできる。  
但し、必ず、水分補給をさせること。

4 ページ

- (3) 有資格者の取り扱いについて
- ③ 試合開始時（トスのとき）に有資格者が不在の場合
- ・すべてのチームスタッフはベンチに入ることにはできない。もし、試合の途中で有資格者が会場入りした場合は、その時点からスタッフ全員がベンチに入ることができる。但し、監督権の行使はセツト間において監督が記録用紙へサインした後となる。

平成30年度6人制ルールの取り扱いを適用する。(資料13ページ)

2. 質問回答

審判団より誤った情報を与えられ、TTO（テクニカルタイムアウト）前の得点まで戻ってしまった場合のTTOの取り扱いについて

平成30年度6人制ルールの取り扱いを適用する。(資料14ページ)

但し、実際に事象が起こったとき、状況によってTTOを取る必要があると大会委員長が認めた場合は、その限りではない。

平成30年度

# 6人制審判関係資料

平成29年度全国6人制審判講習会資料

平成30年3月24日

公益財団法人日本バレーボール協会

国内事業本部

審判規則委員会



## 【6人制 資料目次】

1	JVA 第9期 (2018年度) 運営基本方針	1
2	JVA 第9期 (2018年度) 国内事業本部基本方針	2
3	平成30年度 審判規則委員会 運営基本方針	3
4	平成30年度 ルールの改正点・修正点について	4
5	平成30年度 指導部の目標と6人制の重点指導項目	9
6	平成30年度 6人制ルールの取り扱いについて	11

## 【付録】

審判実技マニュアル

ラインジャッジマニュアル

## 平成30年度 6人制ルールの取り扱いについて

- ・ 4/14、15に行われました日本小学生バレーボール連盟の全国審判委員長懇談会及び審判研修会にて、資料販売した6人制審判関係資料(冊子：提供元JVA)に欠落箇所がありましたので、訂正文章をお知らせいたします。

### (文章欠落)

- 3 プレーの構造 (STRUCTURE OF PLAY) に関する事項  
7.7 ローテーションの反則 (ROTATIONAL FAULT)

#### (注)

- 3 チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられ、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にラインナップを戻し、得点も誤つ (←欠落)



#### (正)

#### (注)

- 3 チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられ、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にラインナップを戻し、得点も誤つた情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、TTO、罰則はそのまま有効とする。これらの事実は、記録用紙に記録されなければならない。

以上

## 公益財団法人 日本バレーボール協会

### 2018年度 運営方針について

本協会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、情報化、少子高齢化、格差拡大などの急激な環境変化の中、バレーボール競技の普及、振興および発展を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで、国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

#### <基本方針>

- 公益財団法人としての透明性の確保  
ガバナンスの確立、コンプライアンス強化をはじめとする組織の厳格な運営、適切な情報開示
- JVA運営における目的と手段の明確化  
JVAが解決しなければならない課題や目標を明確にし、それを達成するための具体的な手段を確立する。
- JVAと加盟団体とのコミュニケーションの促進  
加盟団体との連携強化、JVA・加盟団体が果たすべき役割の明確化、情報の共有
- 「2050年構想」と「中期計画」
  - ・「2050年構想」… 2050年構想を「バレーボール界の将来のあるべき姿」と位置付け、引き続き実現を目指す。
  - ・「中期計画」…… 2050年構想を実現するための5年毎のステップと位置付け、中期計画を策定・実行する。但し、既存の2016～2020年度中期計画については、必要に応じて見直しと修正を加える。

#### <基本方針を推進するための施策>

- 「強化」
  - ・2020東京オリンピックに向けた年次毎の強化計画の策定と確実な実行  
特に20歳前後の若手の特別強化に力を入れる。
  - ・ビーチバレーボール事業の特別強化、普及のための実行計画の策定
  - 2020東京オリンピックまでの年次毎の実行計画を策定し確実に実行する。  
特に加盟団体との連携・協力体制を明確化する。
- 「普及」
  - ・競技者人口の拡大
  - ・指導者の育成（指導者数の増と指導者の資質向上）
  - ・体罰・暴力、ハラスメントの撲滅
  - ・加盟団体との連携強化、加盟団体との役割分担の明確化、課題集約
- 「連携」
  - ・加盟団体とのコミュニケーションの促進とJVAの安定経営のための施策の検討
  - ・評議員会と理事会のあり方の検討
  - ・JVAと日本バレーボールリーグ機構は、バレーボールに関わる全ての分野において垣根を作ることなく「連携」し、「強化」と「普及」の推進に邁進する。
- 「攻め」
  - 「強化」「普及」「連携」の3つのキーワードに加え「攻め」への姿勢転換を図る。
  - ・JVAの各種事業に関する積極的な広報・告知によるプレーヤー、観戦者、スポンサーの増加
  - ・自己財源の確保ができるJVAへの体質転換による2020東京オリンピックに向けた活動エネルギーの蓄積

公益財団法人 日本バレーボール協会  
第9期（2018年度）国内事業本部事業方針  
（2018年4月1日－2019年3月31日）

公益財団法人日本バレーボール協会の第9期（2018年度）運営方針に基づき、国内事業本部として「事業方針」を定め、各種事業を推進する。

本事業本部は、バレーボール界の現状を把握するとともに、加盟団体との連携をさらに強化し、相互の協力と理解の中で施策を共有しながら各種事業を展開する。

- 1 事業の目的を明確にし、各委員会との連携強化を図りながら、効率的な事業を展開する。
- 2 国内競技会については、「天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権」を6人制競技会の頂点とし魅力ある「日本一の大会」を目指す。9人制競技会は「男女総合選手権大会」をトップの大会と位置づけ、9人制バレーボールとソフトバレーボール大会、ヴィンテージ8s大会を通して、生涯スポーツの普及・発展を図る。
- 3 国内競技委員会との連携により、大会および練習における怪我防止等も網羅した競技要項の発行により、安心で安全な競技会を目指すとともに国内競技会の充実を図る。
- 4 審判規則委員会との連携により、国際審判員・JVA公認審判員の技術向上を図り、高いレベルの試合を運営する能力を身に付けるとともに、審判員養成の観点から人材の発掘と育成を図る。
- 5 生涯スポーツ普及委員会との連携により、バレーボール愛好者の発掘およびバレーボール競技人口の拡大・増加を目指し、更なるバレーボールの普及・発展を図る。
- 6 「指導におけるガイドライン」に基づき、体罰・暴力の根絶に努める。また、JVA体罰・暴力の相談窓口への体罰・暴力・暴言・脅迫・威嚇・侮辱などの相談に対して迅速に対応する。
- 7 「ソーシャルメディアの使用に関するガイドライン」に沿って、情報発信者は常に良識的で誠実かつ慎重な発信を心がける。

# 平成30年度 JVA国内事業本部 審判規則委員会 運営基本方針

平成30年度審判規則委員会の運営基本方針を以下の5項目とする。

- 1 映像等を活用し判定基準の統一を図り、安定した審判技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、ルールを的確に適用し、公平・公正で手際のよい判定により安全で円滑な競技運営を行う。
- 2 選手・指導者を対象に、ルール及びルールの取扱いについて説明を行い、ルールの正しい理解とともにルール遵守を醸成する。
- 3 A級候補審判員講習会（ACキャンプ）、9人制特別A級候補審判員講習会（9人制ACキャンプ）、ビーチバレー特別A級候補審判員講習会（ビーチACキャンプ）を実施し、若手審判員の技術向上を図るとともに、B級審判員講習会（B級キャンプ）を開催し、さらに次世代を担う人材の発掘を進める。
- 4 男女共同参画をさらに進めるため、各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進すると共に、メンタル面の強化及び審判技術の向上を図る。
- 5 国内競技会及び国際競技会の成功を期すため事前講習会を開催し、スコアラージャー・アシスタントスコアラージャー・ラインジック・コートオフィシヤルの質的向上を図る。特に、2020東京オリンピックに向けて、スコアラージャー、ラインジック、コートオフィシヤルについて効果的なトレーニング計画を立て、実践を通してレベルアップを図る。

指導部：審判員の技術の向上を目指し、カテゴリーに応じた適切な講習会を実施する。  
また、審判員の責務として、選手及びチームスタッフに対しルールを正確に伝達してルールの理解を深めるよう努力する。

- (1) A級審判員の技術レベルに応じたスキルアップ事業を推進する。
- (2) 各カテゴリーのチームの選手・指導者に対しルールの説明を、行い信頼関係を築く。
- (3) 女性審判員の育成に努める。
- (4) 公認審判員、特に若手審判員の育成に努め、裾野の拡大を図る。

規則部：見易く正確で分かり易いルールブックの作成を目指し、6人制をはじめ4種類のケースブックの編集・整理を行っていく。また、東京オリンピックに向けて6人制とビーチバレーボールのルールブックの英文併記を検討していく。  
9人制についても競技の活性化を図るために、親しみやすいバレーボールを目指し、そのルールの研究を進める。

登録部：JVAメンバー制度（MRS）に従って、公認審判員のMRS登録の増加を図るとともに、公認審判員の現状把握を行う。

以上

# 平成30年度 ルールの改正点・修正点について

## 1. 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2017年1月18日にFIVBより「ルールブック2017-2020」として公表されたものをもとに、2018年度版ルールブックの修正点を以下のようにまとめた。

なお、2018年度版「ケースブック」のケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

### ●修正点

1. 規則25の「記録員」を「スコアラー」に表記を変更し、本文中の記録員をスコアラーに統一した。
2. 規則27の「線審」を「ラインジャッジ」に表記を変更し、本文中の線審をラインジャッジに統一した。
3. 付録(7)にニューフロアモッピングシステムを掲載した。
4. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。
5. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

## 2. 9人制改正点・修正点

本年度は、円滑でよりスピーディーな試合展開を図る観点から「選手交代」に関わるルールの改正を行うこととした。またその他、JVAに寄せられた9人制競技規則に対する意見も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすいルールになるよう心掛けて編集にあたった。

なお、付録(1)特別競技規則の「小学校・中学校・高等学校」に関わる部分は、競技実態の現状を踏まえ、特別競技規則から削除することとした。

以下が本年度の主な改正・修正点である。

### ●改正・修正点

1. 第1条 競技場 (第3項以降の項番を変更・追加した)  
第2項 コート➡(第1図 競技場の規格)を改めた。  
第3項 監督制限ライン➡(第1図 競技場の規格)のとおり改めた。  
第6項 選手交代ゾーン➡新たに追加した。
2. 第4条 チーム

第1項 チームの構成

有効に登録された、9人の選手と6人以内の交代選手を「選手」と定義した。

有効に登録された、監督、コーチ、マネージャーを「チーム役員」と定義した。

第2項 試合への出場

公式記録用紙に記載されていない選手を「登録外の選手」と定義した。

### 3. 第5条 競技参加者の権利と義務

#### 第2項 監督

- 3 監督は、試合中…**→**条文を修正した。(内容の変更は無し)
  - 4 監督は、試合途中から試合に参加…**→**この条文を削除した。
- #### 第3項 キャプテン
- 2 チームキャプテンは、試合開始前…**→**条文を修正した。(内容の変更は無し)
  - 3 チームキャプテンは、試合中、…

- (1) タイムアウトおよび…**→**条文を修正した。(内容の変更は無し)
- (2) 自チームのサービスマンを確認すること。**→**新たに追加した。

#### 4. 第6条 試合前の準備

##### 第1項 トス**→**項の名称を「トス」に改めた。

トスに勝ったチームキャプテンの選択を(1)と(2)に分けた。

##### 第3項 サービスマン確認**→**次のとおり、ルールを改めた。

- 2 サービスマン確認時にサービスマンに記録されていない選手が出場させたいときは、サービスマンに記録されている選手に戻さなければならない。その選手を出場させたいときは、サービスマンに記録されている選手がコートに入った後、試合(セット)開始前に正規の選手交代を要求し、その選手をコートに入れることができる。

##### 第11条 セット間の中断**→**次のとおり、ルールを改めた。

…(略)…ただし、他の試合の妨げとならない限り、自チーム側のフリーゾーンで、ボールを使用してウォームアップをすることができる。

#### 6. 第13条 選手交代

##### 第1項 正規の選手交代**→**次のとおり、ルールを改めた。

- 2 選手交代の要求とは、コートに入る準備のできた交代選手が、選手交代ゾーンに入ること  
をいう。この場合、それぞれのセットの試合開始前の選手交代、およびコート内の選手の  
負傷や病気(以下「負傷等」という。)による選手交代を除いて、監督またはゲームキャ  
プテンはハンドシグナルを示す必要はない。

- 4 選手交代は、それぞれのセットの試合開始前においても要求することができる。この場合、  
監督またはゲームキャプテンはハンドシグナルを示して要求しなければならない。またこ  
の交代は、そのセットの正規の選手交代として記録する。

- 5 選手交代は、同時に2組以上の交代を要求することができる。この場合、コートに入るす  
べての交代選手は、同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。この場合、監督およ  
びゲームキャプテンは組数を示す必要はない。複数の交代は1組ずつ連続して行う。  
6 コート内の選手が負傷等した場合を除き、同じ中断中に2回目の選手交代を要求すること  
はできない。

#### 7. 第14条 試合中断の不当な要求と処置

第1項 不当な要求**→**6項目から5項目に条文を修正し、(1)~(5)の順序を変更した。

- (1) ラリー中、または主審のサービスマン許可の吹笛と同時に、その後の要求
- (2) 要求する権利のない競技参加者がした要求
- (3) 同じ中断中の2回目の選手交代の要求(インプレー中の選手が負傷等した場合を除く。)
- (4) 規定回数を超えた要求

(5) 第1サーブと第2サーブの間の要求

8. 第15条 不法な選手がプレーしたときの処置➡条文を修正した。(内容の変更は無し)  
有効に登録された選手が不法な選手としてプレーした場合と、登録外の選手がプレーした場合を分けて、その処置を記載した。

9. 付録(1)特別競技規則➡前文を次のとおり改め、付則を「1~3」とした。

JVAが主催する競技会を含め、国内の大会に適用する特別競技規則を次のとおり定める。  
なお、小学校・中学校・高等学校・高等学校に関わる特別競技規則については、競技実態の現状を踏まえ削除することとした。

付則の1 競技場の表面からの高さは、最小限7mとする。

付則の2 フリーゾーンは、サイドラインおよびエンドラインからそれぞれ最小限3mとする。

付則の3 チーム役員は、…(略)…役員全員が統一されたウェアを着用していてもよい。

付則の2…小学校・中学校・高等学校のコートの高さを削除。

付則の4…小学校・中学校・高等学校のネットの高さを削除。

付則の5…小学校・中学校・高等学校のボールの規格を削除。

付則の7…小学生・中学生のユニフォームに付ける番号の大きさを削除。

10 付録(2)公式記録記入法

1 試合前➡⑤を「男女別」に改めた。

※サーブスオード一票➡「交代選手番号」欄(6人分の枠)を追加した。

2 トスの後➡④に「試合結果欄のチーム名を記入する」を追加した。

3 試合中➡下記のとおり、(5)と(8)を合わせて一つの項目にした。

試合の遅延および不法な行為によりカードが示され、罰則を適用したときは、その罰則等に該当する欄に選手番号(遅延の場合はD)、A or B欄に該当するチーム記号、セット欄にセットナンバー、得点欄に両チームの得点を記入する。この場合の両チームの得点の記入方法は、「罰則等適用チームの得点：相手チームの得点」とする。また、\_ 不当な要求を拒否した場合(10)下記のとおり、条文を修正し、記載例の一部変更した。

次のようなときは、特記事項欄に、適用した事項/チーム/セット(両チームの得点)その内容の順に簡潔に記録する。

② 不法な選手がコート上でプレーをして、その間に得た得点を取り消したとき。

記載例； 反/B/2 (16:12) 不法な選手No.7 がプレーした間に得た4点を取り消した。

⑤ セットまたは試合の没収があったとき。

記載例1； セット終了後(21:12) セット終了後に登録外の選手No.7 がプレーしたことを確認した。

4 セットが終了したとき➡記載例の図の番号を下記のとおり変更した。

図-4 を図-4-1へ、図-5 を図-4-2へ、図-6 を図-5へ。

11 その他…文章の表現・表記の平易化など、全般にわたり整備を行った。



### 3. ビーチバレー改正点・修正点

本競技規則は、2017年1月18日にFIVBより「ルールブック2017-2020」として公表されたものをもとに、2018年度版ルールブックの修正点を以下のようにまとめた。

また、2018年度版はルールの取り扱いについての周知を図るために6人制・9人制ルールブック同様、『ケースブック』を改訂し付録に掲載した。

以下が本年度の主な修正点である。

#### ●修正点

1. 規則24の「記録員」を「スコアラー」に表記を変更し、本文中の記録員をスコアラーに統一した。
2. 規則26の「線審」を「ラインジャッジ」に表記を変更し、本文中の線審をラインジャッジに統一した。
3. 付録(3)公式記録記入法の2トスの後に2.2を「副審から」とした。
4. 付録(3)公式記録記入法の5備考欄に「チャレンジリクエスト」に関する手順について掲載した。
5. 監督に関する規定について新たに変更された部分を追記した。
6. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。
7. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

### 4. ソフトバレー改正点・修正点

競技規則制定から31年を迎え、この競技の本質である「いつでも、誰でも、いつでも」に沿って、ソフトバレーボールが初心者の方でも、競技規則を理解しやすくなるため、次のように一部を改・修正した。

#### ●改・修正点

##### 1 改正点

今までのルールブックは、競技規則、注解が混在した形になっていました。

注解について、既に理解されていることについては削除し、重要なことについては競技規則に取り入れ、競技規則の理解のために必要なことについては、ケースブックに移しました。

これにより、競技規則のみとした見易いルールブックとなったこと、合せて、ケースブックを取り入れたことにより、競技規則がより分りやすくなりました。ルールブックの構成としました。

##### 2 修正点

- (1) 項目の表記をローマ数字から章、算用数字に修正した。
- (2) 第1章1 競技場➡コートとサーブゾーンを区別し、注解よりチームベンチ、記録席について追加した。
- (3) 第1章2 ネットおよび支柱➡注解よりネットの高さの調整について追加した。
- (4) 第2章1 チームの構成➡注解よりフアミリーの部の定義、試合への出場について追加し、表記全体を修正した。
- (5) 第2章2 試合への出場➡新たに追加した。
- (6) 第2章3 競技参加者の権利と義務➡監督、チームキャプテンの試合中の行動について修正し、注解より背番号について追加した。
- (7) 第3章2 チームの公式ウォームアップ➡注解よりウォームアップ時間について追加した。
- (8) 第3章4 選手の位置とローテーション➡注解より選手の位置関係について追加した。

- (9) 第3章5 試合の中断➡注解よりファミリーの部の小学生の負傷の場合、不当な要求について追加した。
- (10) 第3章6 コートの交替（コートチェンジ）➡注解よりコートの交替について追加した。
- (11) 第4章4 セット（試合）の没収➡回復のタイムアウトについて修正し、注解より例外的な交代について追加した。
- (12) 第5章1 サービス➡注解よりサービスの方法について追加した。
- (13) 第5章2 ボールへの接触➡注解よりボールへの接触について追加した。
- (14) 第5章4 ブロック➡注解よりブロックについて追加した。
- (15) 第5章5 ボールインとボールアウト➡注解よりプレーの続行について追加した。
- (16) 第5章6 プレー上の反則➡注解よりタッチネットの反則について追加した。
- (17) 第5章6 プレー上の反則➡注解よりパッシングがセンターラインの反則について追加した。
- (18) 字句と数値の修正を行った。

## 『平成30年度 指導部の目標と6人制の重点指導項目』

JVA国内事業本部 審判規則委員会 指導部

### 1 目 標

- (1) 審判員は、競技規則を理解するだけでなく、正確に適用する。
- (2) 審判員は、ホイッスルやハンドシグナルを大切にし、基本的な動きや位置取り、手続きを確実に行う。
- (3) 審判員は、向上心を持ち、日頃から信頼されるよう多くの経験を積む努力をする。

### 2 重点指導項目

#### 【主 審】

- (1) 不法な行為について
  - ・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度で競技規則を適用する。
  - ・軽度な不法行為を見逃すことなく、早い段階でステージ1を与える。
- (2) ハンドリング基準について
  - ・クリニック等で基準の確認を行い、すべての審判員が統一できるようにする。
  - ・ラリーを継続するという理由で基準を下げない。
  - ・シングルハンドトスの反則の多くはキャッチの場合が多い。ただボールが回転したからといって反則すべきではないが、反則が起こらないということではない。
- (3) サービス許可について
  - ・前のラリー終了後、両チームの準備ができ、サーバーがボールを保持している状態であれば、およそ8秒で次のサービス許可をする。
- (4) 最終判定の出し方について
  - ・ボールコンタクト、ライン判定について主審が判定に確信が持てない時に限り、判定を出す前に副審、ラインジャッジを呼んで確認する。判定を出した後、チームのアピールで副審、ラインジャッジを呼び判定を覆すことは信頼を失うことになる。

#### 【副 審】

- (1) 不法な行為について
  - ・ネット際、ベンチ等の主審が気づかない不法な行為があれば主審に伝える。
- (2) ポジションの反則について
  - ・サービスヒットの前に移動したり、明らかに入れ代っているなどを見逃さない。
  - ・試合の早い段階で判定をする。
- (3) タッチネットについて
  - ・反則となる可能性がある場合は、副審はボールを迫わずに目を残し判定をする。
- (4) サービスヒット後について
  - ・サービスヒット後、副審はサービスボールが副審側の許容空間外側を通過するか、あるいはアンテナに触れるかを判定するために素早くネット上方向に視線を移す。

(5) 中断の要求について

- ・ゲームの流れを読むとともに、ワンラリー毎にベンチコントロールを行う。
- ・最終セットのチェンジコート後は、ポジションを確認しスコアラーの両手を確認後、中断の要求やリベロのリプレースメントがあれば受けつける。
- ・選手交代の手続きを十分理解し、複数の交代、両チーム同時のケースについてスムーズに行えるようにする。
- ・タイムアウト（テクニカルタイムアウト）後、コートに入ることが遅い場合、ホイッスルとシグナルで促す。繰り返す場合は遅延の罰則を適用するよう進言する。

## 【スコアラー】

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。  
( J V I M S がある場合は、その情報も参考にする )
- (2) ブザーがある場合、セット間終了合図はブザーで合図する。
- (3) 選手交代は確実に選手番号（または○印）とその時の得点を記入する。
  - ・チームが複数の選手交代の要求をした場合は、最初に1度だけブザーを鳴らす。
  - ・同時に両チームから選手交代の要求があった場合は、片方のチームの選手交代を完了させた後、再度ブザーを鳴らしてからもう一方のチームの選手交代を行う。
- (4) 記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審と副審が確認したときに誤りがあったときは、スコアラーが修正する。

## 【アシスタントスコアラー】

- (1) スコアラーと声を掛け合って、交代選手の番号や得点を確認し合う。
- (2) 不法なリベロリプレースメントがあれば、サービス許可のホイッスルのあと、すぐにブザーを鳴らす。
- (3) タイムアウト、テクニカルタイムアウト中は、リベロの位置を副審に通告する。リベロが2人のチームの場合、リベロがコートにいるときは番号も副審に通告する。
- (4) スコアードの得点が正しいか確認する。
- (5) テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。
- (6) 予備の公式記録用紙を準備し、必要があればスコアラーに渡す。

## 【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合に限りフライングシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し、試合に臨む。

## 平成30年度 6人制ルールの取り扱いについて

### 1 競技参加者の行為 (PARTICIPANTS' CONDUCT) に関する事項

#### 20.1 スポーツマンにふさわしい行為 (SPORTSMANLIKE CONDUCT)

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

20.1.2 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。(規則5.2.1.2)

20.1.3 競技参加者は、審判員の決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする言動や態度を避けなければならない。

#### 20.2 フェアプレー (FAIR PLAY)

20.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

#### (注)

1 主審の判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。

2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

3 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

#### 【主にステージ1に該当するケース】

- ①主審が最終判定を出した後にも審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②主審がゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようになる場合。
- ③繰り返しゲームキャプテンの質問の内容が規則の適用や解釈でない場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

#### 【主にステージ2に該当するケース (直接イエローカードを出すケース)】

- ①主副審やラインジャッジの判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
- ②主副審やラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。

4 監督が副審やスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。

5 プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだり、帽子をかぶることは許されない。

6 試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

## 2 チームリーダー (TEAM LEADER) に関する事項

### 5.1 キャプテン (CAPTAIN)

5.1.2 試合中、チームキャプテンはコートに入っているときはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督またはチームキャプテンは、ゲームキャプテンの役割を担うリベロ以外のコート上の選手を指名しなければならぬ。指名されたゲームキャプテンは、選手交代で退くか、チームキャプテンがプレーに復帰するか、またはそのセットが終了するまで、その責務を担う。

5.1.2.2 次の許可を求める。

(a) 服装のすべて、または一部を取り換えること。

(b) チームのポジションが正しいか確認すること。

(c) フロア、ネット、ボールなどをチェックすること。

5.1.2.3 監督不在の場合は、タイムアウトと選手交代を要求する。

### 5.2 監督 (COACH)

5.2.1 監督は、試合を通して、コートの外からチームのプレーを指揮する。また、スターティングラインアップ、交替選手を選び、タイムアウトを取る。監督のこれらの役割について関わるのは副審である。

5.2.2 試合開始前、監督は選手の名前、番号を記録用紙のチーム選手欄に記入するか、記入されたものを確認した後、サインする。

#### (注)

### 1 ゲームキャプテンの指名

① セット開始時に、チームキャプテンがコート上にいない場合、副審は監督またはチームキャプテンにゲームキャプテンを確認する。ただし、次のセット開始時と同様の場合は、前セットに指名された選手がゲームキャプテンになるので、再度監督またはチームキャプテンに確認する必要はない。

② ゲームキャプテンが、選手交代やリベロリプレイメントでコートを離れた場合、副審は監督またはチームキャプテンに新たなゲームキャプテンを確認する。

③ ゲームキャプテンが、選手交代やリベロリプレイメントでコートを離れた時、試合中にゲームキャプテンに指名されたことのある選手がコート上にいる場合は、監督またはチームキャプテンからの申し出がない限り、その選手がゲームキャプテンになるので、再度監督またはチームキャプテンに確認する必要はない。

④ ゲームキャプテンが、選手交代やリベロリプレイメントで一旦コートを離れた後、再度コート上に戻ったとしても、監督またはチームキャプテンからの申し出がない限り、現在指名されている選手がそのままゲームキャプテンとなる。

2 指名されたゲームキャプテンは、確認のため手を挙げる。ただし、同一選手によるゲームキャプテンの確認は、試合を通して一度でよい。

3 監督が試合に遅れて来た場合

- ① 遅れて来た監督は、ベンチに着席することができる。
- ② ゲームキャプテンは、監督が来たことをラリー間に審判へ口頭で伝える。
- ③ 審判が、監督が来たことを確認したら、監督は権利を行使することができる。
- ④ 監督は、セット間もしくは試合終了後に記録用紙にサインする。

### 3 プレーの構造 (STRUCTURE OF PLAY) に関する事項

#### 7.3 スターティングラインアップ (TEAM STARTING LINE-UP)

7.3.5 コート上の選手のポジションが、ラインアップシートと違う場合は、次のように処置する：  
7.3.5.2 セット開始前、そのセットのラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、この選手はラインアップシートにしたがい変更されなければならない。この場合には制裁はない。

7.3.5.3 しかし、監督がそのようなラインアップシートに記入されていない選手をそのままコートでプレーさせたい場合には、監督は正規の選手交代を、該当するハンドシグナルを用いて要求する必要がある。記録用紙に選手交代が記録される。

もしも、ラインアップシートと選手のポジションの違いが、もっと遅い時点で発見された場合は、間違いのあったチームは、正しいポジションに戻さなければならない。相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いをした時点から発見されるまでに、間違いのあったチームの得た得点は取り消される。

7.3.5.4 記録用紙のチーム選手欄に登録されていない選手がコート上にあることが発見された場合は、相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット(必要であれば0-25として)を失い、修正したラインアップシートを提出し、登録されていない選手がいたポジションに、登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

#### 7.5 ポジションの反則 (POSITIONAL FAULT)

7.5.1 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、いずれかの選手が正しいポジションにいない場合は、そのチームはポジションの反則をしたことになる。選手が不法な選手交代をしてコート上において、試合が再開された場合は、不法な選手交代によるポジションの反則とみなされる。(規則 7.1, 7.4, 15.9)

#### 7.7 ロテーションの反則 (ROTATIONAL FAULT)

7.7.1 サービスが正しくロテーション順に行われなかったとき、ロテーションの反則となる。その場合は次のような順序と結果となる：

7.7.1.1 スコアラーがブザーによって試合を止めた場合、相手チームに1点と次のサービスが与えられる。もしも、ロテーションの反則により始まったラリーが完了した後に、そのロテーションの反則が指摘された場合は、そのラリーの結果に関係なく、相手チームに1点のみが与えられる。(規則 6.1.3)

7.7.1.2 反則をしたチームのロテーション順は正しく直される。(規則 7.6.1)

(注)

- 1 セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合  
①副審は、ラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、どちらの選手がスターティングメンバーかを尋ねる。  
②監督が、ラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、該当するハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する。副審は、ハンドシグナルを示しながらホイッスルをする。スコアラールは、正規の選手交代として記録をする。この際、ラインアップシートとおりの選手をコートに戻す必要はない。(コート上の選手は手を挙げ  
る)
- ③監督が提出したラインアップシートとおりの選手をスターティングメンバーとすることを要望する場合は、その場で選手を入れ替えさせる。この場合には制裁はない。
- ④副審は、両チームのラインアップを確認後、主審にシグナルを示し、ゲームが開始される。
- 2 不法な選手交代によるポジションの反則やローテーションの反則により始まったラリーが完了した後にその反則が発見された場合は、ラリーの結果をキャンセルし相手チームに1点と次のサービスが与えられる。また、間違いがもっと遅い時点で発見され、間違いをした時点で明らかかな場合は、発見されるまでに間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。
- 3 チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられ、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にラインナップを戻し、得点も誤り

#### 4 サービス (SERVICE) に関する事項

##### 12.3 サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、両チームがプレーする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後  
に、サービスを許可する。

##### 12.5 スクリーン (SCREENING)

- 12.5.1 サービスチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成し、サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。
- 12.5.2 サービスが行われるとき、サービスチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、ボールがネット垂直面に到達するまでにサーバーとボールのコースの両方を隠すことでスクリーンが形成される。

(注)

- 1 ラリーの終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、およそ8秒のテンポで行う。
- 2 ラリー終了のホイッスルの後、選手交代やワイピングがない場合、およそ8秒が経過すればサーバーがサービスゾーンでボールを保持していることを確認し、サービス許可のホイッスルをする。
- 3 低いサービスボールが、形成されたスクリーンの上を通過しネット垂直面を通過したときに、スクリーンの反則が成立する。



4 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには、サービスのホイスルの前にコート上の選手が6人になるように促す。もし、主審がそのことに気づかずにサービスのホイスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、主審はそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

## 5 中断 (INTERRUPTIONS) に関する事項

### 15.11 不当な要求 (IMPROPER REQUESTS)

- 15.11.1 以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である。
- 15.11.1.1 ラリー中、またはサービスのホイスルと同時に、あるいはその後要求すること。
- 15.11.1.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。
- 15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷や病気の場合を除いて、同じチームが同じ中断中に2回目の選手交代を要求すること。
- 15.11.1.4 タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。
- 15.11.2 試合での1回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならない場合は拒否される。罰則の適用を受けることはないが、記録用紙には記録される。
- 15.11.3 同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

(注)

- 1 正規の競技中断の要求に関して、チームが不当な要求で拒否された後、または、遅延警告を受けた後に、その中断中に同じチームによる同じ競技中断の要求は認められないが、違う種類の中断の要求は認められる。ただし、15.11.1.1の不当な要求については、サービスの実行が優先され、競技中断の要求はすべて認められない。
- 2 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、副審は、監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。

## 6 審判団と手順 (REFEREEING CORPS AND PROCEDURES) に関する事項

### 22.2 手順 (PROCEDURES)

22.2.3.1 反則が主審によってホイスルされた場合は、次の手順で示す：

- a) 次にサービスを行うチーム
- b) 反則の種類
- c) 反則をした選手 (もしも必要ならば)

22.2.3.2 反則が副審によってホイスルされた場合は、次の手順で示す：

- a) 反則の種類
- b) 反則をした選手 (もしも必要ならば)
- c) 主審のハンドシグナルに従って次のサービスを行うチーム

(注)

- 1 主審がホイスルした場合、反則をした選手が明らかであれば、選手を示す必要はない。